

## 地域包括支援センター3職種のチームワークを高めるプログラム開発（第1報）

## —プログラム開発に必要な条件と要素—

○ ケア研究会 河原智江（会員番号 7266）

末田 千恵（会員番号 8532）

キーワード：地域包括支援センター・チームワーク・プログラム開発

## 1. 研究目的

わが国の保健医療福祉は、在宅医療・在宅介護をより推進する状況であり、地域包括ケアシステムをいかに構築していくかということが喫急の課題である。

地域包括ケアシステムを構築していく上で、地域の総合相談窓口の機能を持つ地域包括支援センターの果たす役割は、ますます大きくなっていくことが考えられる。これまでも、地域包括支援センターは、地域の保健医療福祉にかかわる相談をワンストップで受けとめ、相談から初期段階での支援をチームアプローチにより行うため、保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員の3職種（以下、地域包括支援センター3職種という。）が配置されているが、地域包括支援センターが設置されたときよりも、複雑、かつ、緊急性が高いにもかかわらず、既存のしくみや制度では対応できないニーズを持つ利用者が増加している現状がある。そのため、これまで以上に地域包括支援センター3職種は、限られた社会資源、限られた時間等制約がある中でも、チームワークを高めて、効果的に支援を行う必要がある。本研究は、地域包括支援センター3職種のチームワークを高めるプログラムに必要な条件と要素を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究の視点および方法

研究の視点は、地域包括支援センター3職種のチームワークを高めるためのプログラムの開発に必要な条件と要素に着目したことであり、実践の場との協働により取り組んだことに特徴がある。

方法は、まず、首都圏の地域包括支援センターのA及びB地域包括支援センターの2か所において実施した共同研究等における作成資料及びフィールドノートの記録を対象とし、それらの取り組みのプロセスをまとめた。次に、当該地域包括支援センター2か所の3職種を対象として、まとめたプロセスの内容、チームにとっての取り組みの意義、取り組みを通じてチームワークを高めるために必要なこと等についてインタビューを行なった。分析は、地域包括支援センターの取り組みのプロセスと3職種のインタビュー結果から、チームワークにかかわる記述や語りから、チームワークを高めるために必要な条件と要素を抽出した。

調査期間は、2014年10月から2015年3月であった。

### 3. 倫理的配慮

研究の趣旨を理解し、自由意思により本研究に参加した者を対象とし、研究開始前に再度、十分な説明を行い、文書にて同意を取得した。なお、研究の実施にあたっては、C 大学研究倫理審査会の承認を得て実施した。

### 4. 研究結果

#### 1) 地域包括支援センター3 職種の基本属性と取り組み内容

地域包括支援センター3 職種の年齢は 40～60 歳代であり、性別は A 地域包括支援センター社会福祉士のみ男性であった。取り組みは、共同研究、業務分析、事例検討であった。

#### 2) 取り組みのプロセス

A 及び B 地域包括支援センターともに、取り組みの開始にあたり、第一段階としては、3 職種で必要性を話し合い、合意を得て、研究者に取り組みの依頼をしていた。第二段階では、研究者と地域包括支援センター3 職種の 4 者で、何の取り組みをなぜ行いたいのか、何を目指すのかについて確認・議論した後に、取り組みの基本ルール（議論の時間の確保、スケジュールの遵守、自由に意見交換をすること）と取り組みによって目指す現場レベルの目標・研究者が提示した目標及び負担の少ないスケジュールを決め、これを遵守する取り決めを行っていた。

#### 3) チームワークを高めるために必要な条件と要素

チームワークを高めるプログラムに必要な条件として、①3 職種全員がチームワークの重要性と必要性を具体的に認識していること、②業務改善・業務整理に直結するプログラムであること、③学識経験者等特定の第三者と継続的な議論ができる場を設定すること、④個人レベルの資質の向上につながると認識できることが抽出された。

チームワークを高めるために、3 職種たちは、取り組みを開始する前に、【キックオフミーティングの設定】により、【取り組む理由・目指すことの確認】をし、【取り組みの基本ルールの設定】、【自分たちで目標の設定】をして、【特定の第三者から提示された目標の意識化】をすることが必要であると考えていた。また、3 職種たちは、【自分たちで実施・継続可能なスケジュールの作成】をすることにより、【役割分担及び個人ワークの意識づけ】ができるようになって感じていた。そのため、キックオフミーティングにおける【決定事項の遵守の約束】がポイントになると考えていた。取り組み実施中は、3 職種たちは、【自由に学識経験者等特定の第三者に相談できること】が動機づけに影響をすると感じていた。

### 5. 考察

チームワークを高めるために必要な 4 つの条件と 9 つの要素は、“学識経験者等特定の第三者” がキーパーソンになるが、いずれも、実践において求められる必要な条件及び要素であることから、実践に有効なプログラムを開発する上での適用可能性が示唆された。